

1 単元名 町の未来をえがこう「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

2 単元の目標

- ○○小学校の良さをプレゼンテーションで伝えるという活動に関心をもち、資料を活用しながらプレゼンテーション原稿を書こうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 目的に応じて必要な資料を選んで集め、それらを活用して考えが伝わりやすいように原稿を書くことができる。(書くこと)
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、文章全体の効果を考えることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童に対して、目的に応じて必要な情報を選び、考えを書く力に関する実態調査(平成*年*月*日実施, 第6学年*組*人)を行った。調査では、必要な情報を選ぶ力をみるために、「香川県統計情報データベース」から引用した、うどんに関する五つの資料から二つを選び、香川県がうどんの本場と言われる理由を説明させた。その結果、的確な資料を二つ選び、説得力ある理由を書くことができた児童は*人、的確な資料を一つは選んで理由を書けた児童が*人、的確な資料を選べず、説得力ある理由も書けなかった児童が*人であった。以上のことから、目的や意図に応じて資料を選択し、資料と関連付けて考えを書くことに課題があることが分かった。これまでの「書くこと」の学習では、事実と感想、意見などを区別して事柄を整理して書くことに重点を置いた指導を行ってきたが、これからは、目的や意図に応じて、自分の伝えたいことと合う資料を選んで効果的に書く力を育てるために、自分の考えに合った資料を見極めて、文章全体の構成を考えながら書く指導を行う必要があると考える。

(2) 言語活動とその特徴

本単元では、小学校第6学年「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」において、意図が伝わるように、資料を効果的に活用して発表する「私たちの○○小の良さについて考え、閉校式で保護者や地域の人に向けてプレゼンテーションをする」という言語活動を設定する。目的に応じて必要な資料を選んで集め、それらを活用して考えが伝わりやすいように原稿を書く学習活動を行えば、「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」(B書くことア)、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」(B書くことエ)を実現できると考える。児童が目的意識をもって活動できるよう、本校が今年度をもって閉校になるため閉校式で保護者や地域の方々にプレゼンテーションを行うという場面を設定した。児童は自分たちが「○○小学校最後の卒業生」であることを日頃から意識して生活しているため、意欲的に課題に取り組めるだろうと考える。

(3) 教材観

本教材「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」は、意図が伝わるように、複数の資料を読んで情報を効果的に活用し、発表することを目標としている。「わたしたちの町の未来について考え、プレゼンテーションをしよう」という学習課題を踏まえ、目的を意識させた上で教材文を読み取り、自分たちの町をよりよくする提案を発表するために、町作りの取組について調べて発表する。プレゼンテーション原稿を書く学習活動を通して、目的や意図に応じて、資料を活用しながら構成を考えて書く力を育てることができる教材である。

(4) 指導観

本単元の学習活動は、次の通りである。まず「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

本文を読んで、情報収集の仕方やプレゼンテーションをするときの工夫などを押さえ、課題解決のための見通しをもたせる。次に、〇〇小の良さを伝えるために資料の収集や必要に応じてインタビュー活動などを行い、プレゼンテーションの原稿を書いて、スライドに合わせて発表する。このように、目的に応じて必要な資料を選んで集め、それらを活用して考えが伝わりやすいように原稿を書く学習活動を行えば、目的や意図に応じて資料を選択し、文章全体の構成を考えて書く力を育てることができるであろうと考え、単元全体の指導を計画した。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・〇〇小学校の良さをプレゼンテーションで伝えるという活動に関心を持ち、資料を活用しながらプレゼンテーション原稿を書こうとしている。	・目的に応じて必要な資料を選んで集め、それらを活用して考えが伝わりやすいように原稿を書いている。 B-ア, B-エ	・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、文章全体の効果を考えている。 イ-キ

5 単元の指導計画（14時間扱い）

次	時	学習内容	関意態	書く	言語
1	1	学習課題を確かめ、学習の見通しをもつ。	◎		
2	1	「町の幸福論」を読み、教材文の内容を読み取る。			◎
	2	山田小の良さについて、どのようなプレゼンテーションを行うか相談し、担当を決める。また、発表原稿のグッドモデルをもとに、原稿の書き方や資料のイメージをつかむ。	◎		○
	3・4	プレゼンテーションの内容を明確にし、資料を集める。	◎		
	5・6	伝えたいことと集めた資料を照らし合わせ、本当に適切な資料か、必要な情報は足りているか検討し、必要に応じて再度資料を集める。		◎	
	7 本時	集めた資料を活用して発表原稿を書く。		◎	○
	8	友達と意見交換しながら、原稿や資料を提示するタイミングなどを推敲する。		◎	○
3	1・2	プレゼンテーション資料(スライド)を作成し、リハーサルをする。	◎		
	3	保護者に向けて授業参観にプレゼンテーションを行う。	◎		
	4	ビデオを見ながらプレゼンテーションを振り返り、原稿を改善する。	○	◎	
	5	閉校式でプレゼンテーションを行う。(3月)	◎		

6 本時の学習

(1) 目標

複数の資料から情報を読み取り、それらの情報を効果的に活用して発表する原稿を書くことができる。

(2) 準備・資料

ワークシート、グッドモデル、前時までまでに自分で集めた資料（写真やアンケート結果など）

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（評価は㊦）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>伝えたいことが効果的に伝わるように、資料を活用して発表原稿を書こう。</p></div> <p>2 自分がプレゼンテーションで伝えたいことを再度確認し、どのような順序で話せば伝わるかを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><ul style="list-style-type: none">・最も伝えたいことは何か・資料提示のタイミングを考える（複数示す場合には、その順序も）・（スライドに言葉を入れる場合は）言葉を考える</div> <p>3 2で考えたものを文章化する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>ぼくは、〇〇小の歴史について調べる中で、人数の減少とともに、運動会の種目も変化してきたことに気付きました。</p><p>次の写真を見てください。（鼓笛パレードの写真を出す。）</p><p>これは、1988年ごろの運動会の写真です。現在は行われていない「鼓笛パレード」が行われていたことを初めて知り、驚きました。音楽室には今でも、パレードで使われた楽器が残っています。</p><p>30年前の〇〇小には約〇〇人の児童がいたので、運動会も迫力があつたと思います。今では児童数が減って、パレードができないのが残念ですが、その代わり、今は縦割り班での種目があります。（縦割り種目の競技写真を出す。）</p><p>ぼくたちは、毎日の掃除やニコニコタイムなど、縦割り班で活動してきました。だから、30年前の〇〇小の人たちよりも、下級生と上級生が仲良しだと思います。</p><p>昔より人数は減ってしまいましたが、お互いに助け合う絆の強さは、今の方が強いと思います。それが、運動会の種目でも伝わっていたのではないのでしょうか。</p></div> <p>4 本時の学習を振り返る。 自己評価し、感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・前時までに集めた資料を活用できるよう、原稿に組み入れることを確認する。・書く時間を確保できるよう、確認はできるだけ短時間で行う。・2次第2時のグッドモデルを再度示し、どのような点に注意すべきなのか確かめる。・資料を写真や図のみにするのか、言葉を入れるのかを確認し、言葉は要点のみを示すよう助言する。また、伝えたいことや使う資料に合わせて、頭括型や尾括型、双括型のどれで原稿を書くときよいか助言する。・文章を書くことに抵抗感がある児童には、頭括型や尾括型、双括型に分かれた文章構成ワークシートを渡し、話の展開をイメージしやすいようにする。 <ul style="list-style-type: none">・推敲しやすいように、行間の空いた原稿用紙を準備する。・資料提示のタイミングも入れるようにして、本番を想定した原稿となるようにする。・原稿は一人あたり400字前後を目安とする。・資料から分かることが、自分の意見とつながっており、その根拠となるように書くことを助言する。・早く書き終わった児童には、誤字脱字などの最終確認をするよう促す。そのとき、自分が伝えなかったことが、きちんと原稿に書けているか見直すよう助言する。 <p>㊦ [書く能力]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>資料から読み取った情報を効果的に活用して、発表原稿を書いている。 (観察、発表原稿)</p></div>